

マドリーム通信

在スペイン日本国大使館付属

マドリッド日本人学校

文責 久保 俊博

平成29年2月1日 No. 12

「冗長率とコミュニケーション」

久保 俊博

最近、いろいろなところで「コミュニケーション能力」という言葉が出てきます。では、一般社会の中で、コミュニケーションが上手な人というのは、どんな人のことをいうのでしょうか？

そんなことを考えていたとき、ある劇作家の方が、その上手下手の判断材料の一つとして、タイトルにある「冗長率」というものを基準にしては…と述べられています。

「冗長率」とは、一つの文章に、どれだけ意味伝達と関係のないムダな言葉が含まれているかを数値化したものです。デジタル大辞泉によると、「冗長」とは、文章や話などがムダが多くて長いこととあります。

この冗長率が最も低い状況はどの場面かというと、夫婦間での会話だそうです。昔あった「めし、ふろ、しんぶん」というものがそれです。逆に、最も冗長率が高いのは「対話」だそうです。お互い、異なる価値観をすりあわせていく行為なので、最初はどうしても当たり障りのないところから始まります。

「え～と、そうですね。それは理解できますが、まず、ここは一つ別の視点で考えてみることも大切なのでは…」

このような話は、冗長率が極端に高くなります。この切り口から本題に入り、お互いの対話がうまく成立したとき、仕事の話もうまくいくのではないのでしょうか（このへんは、保護者の皆さんがよくご存じだと思います）。

このように見ていくと、一般社会の中でコミュニケーション能力に長けている人というのは、この冗長率を時と場合によって上手に使い分けている人…ということになるのではないのでしょうか。

某国営放送の午後7時からのニュースと9時からのニュースでは、明らかに冗長率が違うと指摘する方もいらっしゃいます。確かに、7時のニュースのほうが堅苦しく、9時からのニュースのほうがアナウンサーも、心なしか物腰が柔らかい感じもします。

国際社会の中では、私たち日本人が使うコミュニケーションは少数派であり、欧米が使うコミュニケーションは多数派だと感じます。基本的に、コミュニケーションに優劣はないし、善し悪しではないですから、少数派だからと言って、私たちのコミュニケーションに卑下する必要はありません。ただ、時として多数派が占める欧米式のコミュニケーションを、マナーとして理解しておくことが肝要であり、私たちのコミュニケーションに、欧米のコミュニケーションをプラスして、国際社会を乗り切っていくことが必要なのでは…と、スペインに住まわせてもらってから考えている今日この頃です。

皆さん、どのようにお考えでしょうか？



2月の行事予定



今年の恵方… 北北西 やや右だそうです ←

1	水	全校集会、給食
2	木	中学部進学説明会
3	金	入学説明会、部活動
4	土	
5	日	第3回漢字検定
6	月	チャレンジ漢字テスト
7	火	児童生徒企画集会
8	水	給食
9	木	
10	金	部活動（小のみ）
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	講師招聘学習（JAL）
15	水	給食
16	木	中学部学年末テスト①
17	金	中学部学年末テスト②、部活動
18	土	短期入学説明会（補習校生対象）
19	日	第3回英語検定2次試験
20	月	
21	火	
22	水	給食
23	木	
24	金	部活動（最終）
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	

2月の生活目標:

ありがとうの気持ちを大切にしよう！

講師招聘学習（航空教室）!

2月14日（火）、講師招聘学習が行われます。今回は、JALから現役のパイロットと客室乗務員の方をお招きし、仕事内容や取り組みなどについて、アミーゴ室でお話をさせていただきます。

時間は、小学部対象が13時50分から14時40分まで、中学部対象が14時50分から15時40分までです。

保護者の皆様も、是非ご参加ください。

餅つき大会、無事終了!

日本人会主催の「餅つき大会」が、1月15日(日)に本校体育館で初めて行われました。

当日は、大変多くの方に来ていただきました。児童生徒たちは、「1月1日の歌」を元気よく歌いました。また、お正月の雰囲気を感じていただけるよう、水曜会の夫人部の皆様による「お餅」も大変好評でした。準備など、寒い中、大変だったと思います。お疲れ様でした。

プント券を手にした児童生徒たちの嬉しそうな顔が印象的でした。



書き初め大会の表彰

1月9日(月)に行われた書き初め大会の表彰が行われました。今回、入賞した児童生徒は、以下の5名です。

【小学部】

2年生…〇〇〇〇くん、4年生…〇 〇〇さん、
6年生…〇〇〇〇さん、

【中学部】

1年生…〇〇〇〇くん、3年生 〇〇 〇くん

おめでとうございます。

日本語弁論大会

1月20日(金)、日西文化協会が主催の「日本語弁論大会」が行われました。今回は、日本語の学習期間が2年未満と2年以上の2つのグループに分かれて行われました。

参加された16名の弁士の皆さんは、大変日本語がうまく、「なるほど…」と納得する内容が多かったように思います。来年もこの時期に行われます。是非、保護者の皆様もお子さんを連れて、ご覧になってはいかがでしょうか? 大変刺激を受けますと思います。

第3回 漢字検定

2月5日(日)に、第3回漢字検定が行われます。今回は、2級から10級まで44名が受験します。

2級のレベルは大変難しく、日本人でも真剣に勉強を行わないと合格できないレベルです。まだ時間はあります。一人でも多くの受験者が、合格することを祈っています。



マラソン大会

1月31日(火)、6時間目から課外の時間にかけて、校内マラソン大会が行われました。先週末から天候不順が続き心配していましたが、当日は児童生徒の願いが届いたのか、絶好のマラソン日和でした。

今年は、学校隣にある公園を回るコースで行われました。苦しくても、自分に負けない、しっかりと走りをしていただきたいと思います。

保護者の皆様にも、応援をしていただきました。どうもありがとうございます。



教師のつぶやき

「努力で限界は打ち破れる…!」

雨森 正浩

皆さん、自分の限界を決めつけて諦めていることって多くないですか? 私は何でも諦めがちな性格だったのですが、中学校の部活で、努力で限界はぶち破れるということ学びました。私は中学校の時に陸上部に入部しました。きっかけは、部活見学の時に棒高跳びをしている先輩を見て、自分もやってみたいと思い仮入部届けを顧問の先生に持って行きました。顧問の先生は、丸坊主で筋肉質の見るからに鬼教師でした。その先生は私の仮入部届けを受け取るなり、その場で破り「これで他のクラブにいけへんで」と恐ろしい笑顔で言われました。

その日から地獄の日々が始まりました。うちの陸上部は府の大会でも上位に入るクラブで、練習はとて厳しく、慣れるまで吐き続けました。救いは先輩との上下関係が非常に良く、一緒に練習を乗り切ろうと優しい声をかけてくることでした。不思議と辞めるという選択肢はなく、ただ日々の練習をこなす毎日でした。冬は長距離ランニングや筋トレといった地味な練習で、これもまたつらく身体が悲鳴をあげていました。

一年間坦々と練習を続けた結果、春には自分でも想像出来ないくらい足が速くなりました。入部当時は一番遅かった自分が、リレーメンバーに選ばれる様になりました。また、顧問の先生からハードルの素質を見出され、自分が得意とすることができる種目に出会うことができました。

家族を初め、入部当時の私を知っている人はこの成長にとて驚きました。限界を決めつけず、努力をし続ければ予想以上の成長ができるということを中学の部活で学びました。小・中学生の皆さん、貴方達には何でも出来る可能性がありますので、色々なことに挑戦して下さい。

